



優しい風の吹く街



8月6日 宝塚市原爆被害者の会会長の岡邊好子さんと

この夏は終戦から76年目の夏でした。ヒロシマ原爆忌、ナガサキ原爆忌の両日には、市民が末広中央公園で平和の鐘を鳴らしました。核兵器の廃絶と平和な社会の実現を願ってやみません。

また、この夏は新型コロナウイルス感染症が猛威を震いましたが、ワクチン接種が進み、10月には感染者は減少しています。引き続き感染対策をしっかり行っていきましょう。



9月補正予算・新しい主な政策

- 大学生・専門学校生への給付型(返済不要)奨学金創設
- ワクチン接種会場をさらに広げ、妊婦とその家族の予約も優先
- すみれウィメンズプロジェクト(女性支援・悩み相談)
- 観光事業者支援(宝塚市民向け企画の宿泊代金割引)
- つながりの場づくり緊急支援(児童館や子ども食堂など、子どもの居場所や相談窓口にて、生理用品配布。貧困家庭を支援する)
- 「スマホでカンタン!申請書作成」総合窓口化、実証実験から本稼働
- 宝塚市立病院 発熱外来に屋根を設置
- 宝塚市立病院 超音波画像診断装置、気管支鏡、人工呼吸器、ネーザルハイフロー(加温加湿器搭載型フロージェネレーター)、全自動化学発光酵素免疫測定装置など、コロナ治療医療機器購入



Deaf「聞こえない人」たちへの支援

<質問>

「手話言語条例」の目的を達成するための取組は。

<市長答弁>

- ・手話普及の取組として手話奉仕員や手話通訳者の養成講座を実施
 - ・中途難聴者の方々も手話を取得しやすいようにトータルコミュニケーション講座を開催
 - ・手話言語条例のパンフレットを作成し市内公立学校の4年生に配布
 - ・手話言語発表会と手話言語講演会を隔年で開催
 - ・手話による読み聞かせ「手話で楽しむ絵本の世界」を中央図書館で開催
 - ・3月を手話月間として、手話に関する図書や資料の展示、市役所に手話学習コーナーを設置
 - ・新規採用職員などに手話の研修を実施
 - ・手話を使用しやすい環境づくりの推進のため、宝塚市手話言語施策推進会議を設置
- 今後も手話を体験できる取組を検討していきたい。

<質問>

コロナ禍において、マスクによって口元が見えづらく会話が難しい人への市の対策は。筆談に頼らなくても簡単に会話に参加できる「音変換アプリ」の導入を。

<市長答弁>

- ・ゆっくり大きな声で話しかけること
- ・必要に応じてフェイスシールドを着用
- ・手話通訳・要約筆記や筆談

意思疎通支援のさらなる向上を図るため、窓口における音声変換アプリなどの利用・可能性について研究していく。



<質問>

補聴器は一人ひとりの状態に合わせてつくるので高額であるが、障害者手帳を持たない軽度難聴者や中等度難聴者へ助成がなく、経済的にも精神的にも追い詰められている現状がある。補聴器購入の補助を検討できないか。

<市長答弁>

他の自治体において年齢や所得要件などを設け助成を行っている事例はある。国・県に要望しつつ、研究を進めていきたいと考えている。

コロナ禍における子どもたちの学びと人権を守る施策について

<質問>

ICT支援員を拡充してオンラインによる教育活動をスムーズに進めていくことができるようにしてほしい。

<教育長答弁>

- ・5名のICT支援員が各学校に月2回訪問
- ・授業支援や教材研究のサポート、校内研修、ICTトラブルの対処等
- ・令和5年度以降は支援員の適正な配置検討

<質問>

オンライン授業を進めていくためのビデオカメラやマイク等の必要機材の導入や、通信環境整備の

進捗状況は。通信費負担が難しい家庭には、通信機能付きタブレットや、通信機能付きポケットWi-Fiなどの貸し出しを検討できないか。

<教育長答弁>

- ・タブレット端末に搭載されているカメラでは遠くの文字などを確認することが難しく、カメラやマイクなどの機材は必要となるが、配置は不十分
- ・オンラインによる教育活動に向けた取組のため必要な機材の整備に向けて検討
- ・Wi-Fi環境がない家庭にはモバイルルーターを貸し出し通信費の負担が困難な家庭に対しては、就学援助制度による補助について検討

<質問>

学級担任だけの支給から次の段階として、全ての学校教職員へタブレット端末を支給し、子どもの個性や発達に合わせた有効な授業づくりを。

<教育長答弁>

本市のICT教育の更なる推進のためには、授業を行う全ての教職員にタブレット端末が行き渡る必要があると認識し、教員用のコンピューターの在り方とタブレット端末の整備を検討

<質問>

コロナ感染症に関わる偏見や差別をなくす取組。臨時休校の学校名の公表については慎重であるべきではなかったか。また、公表による当事者の特定への動きや家族の負担などへの配慮は。

<教育長答弁>

新型コロナウイルス感染症は誰もが感染する可能性があり、感染者に対する差別や誹謗中傷はあってはならないことだと考えている。昨年には、偏見などの防止について日本赤十字社がまとめた教材を用いて指導し、差別などの防止に努めた。今後も思いやりの気持ちをもって支えあうよう児童生徒に指導

するとともに保護者の皆さんにもご理解とご協力をお願いしていく。

<2次質問>

先ごろ、学校が配置したタブレットを使ったチャットいじめが原因で自殺した子どもがいたという痛ましい報道があった。また、家庭でのオンライン授業では、教室や周りの友人の様子がわからず、孤立を深める子どももいるようである。

メディアリテラシーの在り方や、ICTモラル教育が重要となる。差別の禁止と相談体制を強化し誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めてほしい。

<学校教育部長答弁>

ICTモラル教育については「タブレットパソコン利用ガイドブック」を配布し最低限のルール周知を実施した。

「お助けネットクラウド」というICTモラルについて学べる無償のインターネットコンテンツを紹介し、各学校で活用している。

まちの安全と美化について

<質問>

市内には多くのタイル舗装や石畳の歩道があるが近年タイルの剥がれて危険箇所が増えている。現状認識と解決策に向けた見解を。

<市長答弁>

小林聖心につながる石畳等、市内にある美装化した舗装は、部分的に割れや剥がれが生じてきており、同様の製品の入手が困難なこと等から、簡易アスファルトなどで補修している。今後も歩行者の安全確保に努めるとともに、美装化された舗装のあり方について、耐久性や機能性、コスト面も含めた修繕方法を検討していく。

<質問>

のじぎく国体で整備された市立体育館前の道路壁面が傷んでおり補修改善策が必要ではないか。メインストリートなので、アート作品の取り扱いと壁面塗り替えを検討してほしい。

<市長答弁>

バドミントンの競技会場となった総合体育館前の美観を確保するため、当時の宝塚造形芸術大学の教授の監修により、国体に向けた広報・市民運動事業の一環として、同大学の学生の作品を掲示していた。今後は、隣接している宝塚中学校や作品の関係者とともに、参加型の協働作業による壁の塗り替えを調整していく。

北野さと子の意見

■宝来橋(ほうらいばし)の整備

宝来橋はフランスの彫刻家マルタ・パンデザインのS字型橋梁で1994年完成。ユニークなS字と連続した植樹帯と水の流れるいわゆるガーデンブリッジである。宝塚大橋、花の道、そしてこの宝来橋は、宝塚市の観光プロムナードの重要な場所であり、美しい橋である。しかし近年この橋の歩道の白タイル舗装が何枚も剥がれ落ち、補修が遅れて黒いアスファルトで埋め戻されている。植栽も含めて、景観を保つことができる補修のあり方について道路政策の観点から検討すべきである。

活動トピックス

8/2 <高校生平和大使>
核兵器の廃絶と
平和な世界の実現をめざす

第24代「高校生平和大使」に選ばれた小林聖心女子学院高校3年生の岡本美里さんが宝塚市役所を表敬訪問。コロナ禍により例年のような国連派遣は叶わないが、平和大使サポーター4人の高校生とともに、すでにインターネットサイトを立ち上げ情報発信の準備も整えておられるそうだ。

山崎晴恵市長と五十嵐孝教育長との懇談では、岡本さんがどのような想いで平和大使に応募したのか、模擬国連軍縮会議での世界の子どもたちの実情への危機感、自分自身の生と死を見つめた病気の経験などを聴くことができた。

これからの高校生平和大使の活動が楽しみである。



高校生平和大使

風のこころ

この原稿を書いているのは衆議院総選挙前。市民連合と野党4党が合意した、憲法に基づく政治の回復や、「格差と貧困の是正、ジェンダー視点に基づいた自由で公平な社会などの共通政策の実現」を強く願って日々活動している。